

---

## 南瓜「熊本早生黒皮」の育種について

吉村邦敏・大田譲一  
(熊本県農業試験場八代支場)

YOSHIMURA, K. and OTA, J.  
The New Variety of *Cucurbita moschata* Duch., "Kumamoto Wase Kurokawa"

---

先に発表した南瓜の育成種中型会津×黒皮早生の後代より分離固定を行なった数系統と黒皮種の既成品種の交配種との組合せ検定を昭和36年より行なつて来たが、育成系統の1-14-6-2-2×小菊の一代雑種

は、親品種の特性を受けつぎ、半促成栽培において着果性、多収性、品質、果型および市場性等肥後早生よりもすぐれていることが明らかとなつた。この組合せの一代雑種を熊本早生黒皮と命名し普及にうつしたの

で発表する。

**育種経過および試験結果**

昭和36年より実用固定した数系統と既成品種との一代雑種が親の能力と如何なる結果を得るかを検定した。1-14-6-2-2とジキ、富津、黒皮4号、小菊との交配においては、ジキ、富津の交配は黒皮にコブが生じ腰高の果実となり、果色が緑色を帯びて又、品種の形質表現が強くと大果となり食味も劣る傾向が認められた。小菊×黒皮4号は親系統よりやや菊座型が強くと現われ黒皮は暗黒色で光沢が現われ果形はやや小型になるが、着果性は更に安定し初期収量も高く熟期も早いことが認められた。しかし黒皮4号の一代雑種では果の揃いが悪かつたが黒皮4号の純度によるものと思われる。翌年更に1-14-6-2-2の類似系統

第1表 半促成における交配組合せ検定の生育収量調査成績 (24株) S.38

組合せ名	第2期 ♀花開花始	熟期	株当り 収穫数	1果平均 重 g	a当り 収穫重 kg
1-14-6-2×印	3.22	+	4.0	716.8	238.3
1-14-6-2×富	3.22	-	3.6	829.6	248.2
1-14-6-2×小	3.21	+	4.2	640.6	224.0
1-14-6-2×黒皮4号	3.19	+	4.8	597.2	238.2
2-6-3-1×小	3.19	+	3.3	905.6	248.3
2-6-3-1×黒皮4号	3.23	+	3.3	842.5	231.0
1-14-6-2-2	3.25	+	3.6	726.7	217.5
2-6-3-1-1	3.25	+	2.8	938.5	218.7
肥後早生2号	3.19	+	3.2	962.8	256.0

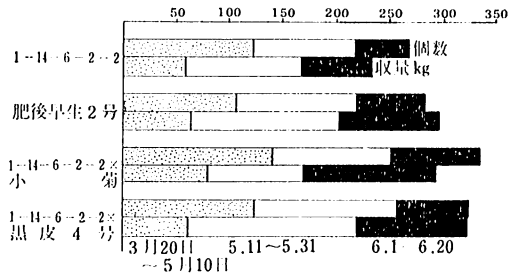
(注) 12月17日播種 2月15日定植

第2表 半促成南瓜の交配組合せ検定試験生育調査成績 (22株) S.39

組合名	項目	第1期 ♀花開花始	熟期	1株収 穫果数 ヶ	1果平均 重 g	a当り 収穫重 kg
1-14-6-2×小	菊	3.4	+	4.3	830.1	291.6
1-14-6-2×黒皮4号		3.4	+	3.9	998.9	320.9
1-14-6-2-2		3.5	+	3.2	858.9	228.7
肥後早生2号		3.6	+	3.4	1043.5	293.5

注 12月20日播種 2月10日定植

第1図 半促成における育成種の生産力定時期別収量 (S,39)



も入れ小菊や黒皮4号との組合せを作り検定を行つたが前年と同様1-14-6-2-2と小菊との一代雑種がすぐれていることが確認され、肥後早生2号より諸形質において優秀であつたので昭和39年熊本黒皮と命名した。

**熊本早生黒皮の特性**

- (1) 熊本早生黒皮は肥後早生同様、低温期の生育は旺盛で草勢は強いが蔓ぼけの傾向は少なく着果性は著しく安定している。
- (2) 雌花着生は高温にはやや敏感で、高温育苗すれば雌花節位が高くなる傾向があるので、半促成栽培においても冷床育苗の方がよい。育苗日数は55~60日とする。
- (3) 果型は肥後早生よりやや菊座型であるが、肩部の肉は厚く、内腔は小さい。果重は最盛期で1kg前後、果色は暗黒色の光沢が強く、外皮にコブが出来ない。肥後早生より着果数は多いが果重が小さいので総収量ではやや劣る。
- (4) 食味は中型会津の血を強く受けて、粘質で和種特有な食味で極めて良好である。
- (5) 食味がすぐれやや小型であることから肥後早生よりも市場性が高い。
- (6) 熊本早生黒皮の適する栽培型は12月中旬、は種の大形トンネルでの半促成栽培。1月下旬~2月上旬、は種の小型トンネルでの早熟栽培である。8月は種の抑制栽培には不適である。